

東高瀬川ビジネスパーク構想

2023年3月
東高瀬川ビジネスパーク構想 策定委員会

はじめに	01
1. 地区を取り巻く状況と課題	02
1-1 地区の概要	02
1-2 まちづくりの課題	03
2. まちづくりの方向性と戦略	04
3. 将来像の実現に向けた取組施策の提案	06
3-1 戦略に基づく取組施策	06
3-2 施策を踏まえた将来像のイメージ	08
4. まちづくりの推進に向けて	09
4-1 取組のロードマップ	09
4-2 推進に向けた連携体制	09
4-3 施策展開に向けた役割分担	10

はじめに

(1) ご挨拶

京都・伏見の雑居ビルの一階ガレージで会社を立ち上げ、現本社のある竹田藁屋町に移転したのは、創業から6年後の昭和60年6月のことです。以来、半導体分野の中でも最先端の化合物半導体製造装置に特化した研究開発型企業として研鑽を重ねて、「薄膜技術のサムコ」として少しは世に知られる存在となりました。私が今日まで事業を続けることが出来た背景には、大学を始めとする多くの友人知人との交流、優れた技術、社員の頑張り、市場の拡大など様々な要因がありますが、第二ステージの地として選んだ立地の良さも大きいと考えています。世界的な大企業である京セラをはじめ、多種多様なものづくり企業が周囲に集積しており、名神高速道路のインターチェンジはじめ交通基盤の整う、企業活動の好適地です。

我が国の戦後復興と経済成長をけん引したのは、紛れもなくものづくりのチカラです。「失われた30年」と揶揄される長期低迷から我が国が脱するため、この国はものづくりのチカラを再び取り戻すことが不可欠です。とりわけ京都のまちは、古より発展した内陸型製造業の街であり、またベンチャーの都とも称されています。新たな産業活力を生み出す拠点として、「らくなん進都」が京都の最適地であることは言うまでもありません。

京都市政においても数十年来まちづくりを推進して来られましたが、当初の絵姿からみれば道半ばです。行政への期待は引き続き大きいとは言ってもありませんが、当地で事業を営む我々企業人が積極的に関わることで「らくなん新進」のまちづくりに貢献できると考えます。「らくなん進都」は、北は十条通から南は宇治川まで600haを超えて非常に広大ですから、まずは日ごろ私たちが事業を営む東高瀬川界隈から「らくなん進都」のまちづくりをリードしたいと考えています。

世界で活躍する中堅企業やものづくりベンチャーの集積を官民協働で進めるとともに、この街に立地する企業群が成長することで、「一兆円規模の産業集積を成す東高瀬川ビジネスパーク」となることを目指して、この度「東高瀬川ビジネスパーク構想」を提案します。志を共有できる皆さんとご一緒に、構想を実現して参りましょう。

東高瀬川ビジネスパーク構想検討委員会
委員長 辻 理

(2) 本構想策定の趣旨と経緯

京都市では、市南部を南北に貫く幹線道路である油小路通沿道を中心に、約607haに渡る広大な市街地を「らくなん進都」として位置づけ、長年に渡り「南部創造のまちづくりの先導地区」に相応しい企業集積や、良好な都市環境の形成に向けた取組が進められてきました。

中でも「らくなん進都」の中央部に位置する「東高瀬川エリア（東高瀬川～油小路通沿道、城南宮道～大手筋）」は、ファッション産業団地やACT京都なども立地する産業ポテンシャルの高い地域です。今後も「新たな価値を創造する企業の集積・交流エリア」としての発展が期待されています。

このような背景を踏まえ、2022年8月、「らくなん進都」のまちづくりにおいて、長年に渡り中心的な役割を果たしてこられた株式会社サムコ創業者の辻会長の呼びかけに対して、ご当地に関わりのある企業の経営者や京都市成長産業創造センター（略称：ACT京都）など有志が集まり、京都市や金融機関も連携する形で「京都南部に相応しい新たなビジネスパークを東高瀬川界隈に構築」することを目的とする「東高瀬川ビジネスパーク構想委員会」が設立されました。

当委員会では、当地の内外にて活躍されている企業経営者の皆さんとの輪を広げながら、全4回の委員会での議論を通じて、将来ビジョンやアクションプランを立案してまいりました。

今後、本構想を踏まえ、行政当局や関係機関と連携しながら、その実現を目指したいと考えています。

検討委員会メンバー表

■ 検討委員		(五十音順)
氏名	所属	備考
生田 泰宏	生田産機工業株式会社 代表取締役	
大澤 克也	英興株式会社 代表取締役社長	
木村 学	(一財)京都府総合見本市会館 専務理事	
澤村 健一	イーセップ株式会社 代表取締役社長	
鈴木 泰雄	株式会社ブラズマイオンアシスト 取締役会長	
竹田 正俊	株式会社クロスエフェクト 代表取締役	
辻 理	サムコ株式会社 代表取締役会長	委員長
戸島 耕二	株式会社増田医科器械 代表取締役	
平尾 一之	京都市成長産業創造センター センター長	副委員長
馬屋原 宏	前京都市伏見区長	
三上 敦	株式会社 KAMOGAWA 代表取締役会長	
■ 顧問		
白須 正	龍谷大学 政策学部 教授	
山口 悟郎	京セラ株式会社 代表取締役会長	
■ オブザーバー		(順不同)
西村 優一	京都銀行 伏見支店長	
福島 一浩	同 下鳥羽支店長	
境 和彦	滋賀銀行 京都南支店長	
鋤田 昌紀	京都中央信用金庫 下鳥羽支店長	
高岸 達哉	京都信用金庫 伏見支店長	
京都市産業観光局・都市計画局		
■ 事務局		
株式会社地域計画建築研究所(アルパック)		

開催経過

第1回委員会 2022年8月3日 (ACT京都)	① 東高瀬川地区のポテンシャルについて ② 東高瀬川地区におけるまちづくり課題について ③ 今後のまちづくりの方向性について
第2回委員会 2022年10月4日 (株)クロスエフェクト)	① らくなん進都のリーディング地区に相応しい「今後のまちづくりの方向性」について ② 東高瀬川ビジネスパークのまちづくりを進める際の「戦略」について
第3回委員会 2022年12月2日 (株)増田医科器械)	① 「戦略に基づく取組施策」について ② 「重点施策」の妥当性並びに具体的な取組について ③ 「まちづくりの推進体制」について
第4回委員会 2023年2月8日 (サムコ株)	① 構想のとりまとめについて ② 構想の実現に向けた次年度以降の取組について

1. 地区を取り巻く状況と課題

1-1 地区の概要

(1) 地区の位置

当該地区は、「らくなん進都」の中央部に位置し、北は“城南宮道” 南は“大手筋” 東は“東高瀬川” 西は“油小路”に囲まれる地区で、京都駅からバス（らくなんエクスプレス）で約 18 分、竹田駅から徒歩約 9 分の立地となっています。地区面積は、約 **42.6ha** となっています。

高速道路等の交通便利に長け、ファッション産業団地や ACT 京都など支援拠点が立地する産業ポテンシャルの高い地域となっています。

周辺には、城南宮、安楽壽院陵、三栖神社をはじめとした史跡や、伏見の酒蔵などが立地します。



(2) 地区の履歴とまちづくりの歩み

当地は、近世以降、高瀬川を用いた京への物資輸送において、中継地として重要なポジションを担った地域でした。昭和中期以降のインフラ整備や区画整理事業を機に、多様な産業集積がなされてきました。

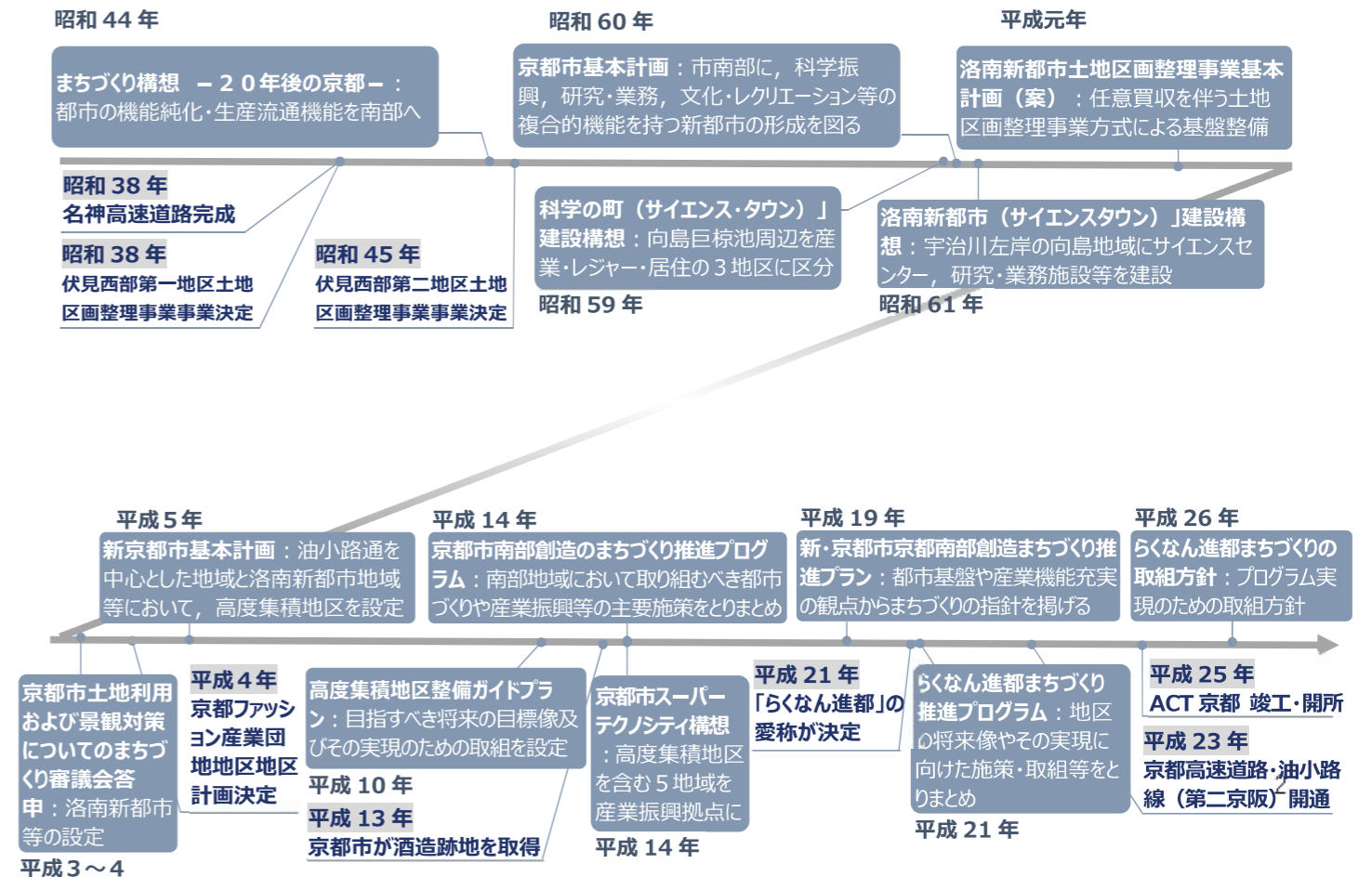
地区の成り立ち

- ・地区の大部分は、かつての旧伏見町の周縁部に当たります。
- ・地区北部は旧竹田村、地区南部は旧下鳥羽村に当たります。
- ・伏見町の中心部は、両側町を基本とした市街地が今に残る一方、「毛利町」「治部町」「島津町」は、国名・役職名等を町名としたものであり、伏見城下に建設された大名屋敷やその名前に由来し、道路で区画される市街地構成を有します。

東高瀬川（新高瀬川）の役割

徳川氏の支配下に入った時代、民間活力を導入した公共事業が多数実施され、角倉了以による高瀬川開削もその一つでした。高瀬川舟運は、京都・伏見間を直結するとともに、大坂方面からの通船を伏見から高瀬川を北上して京二条へ到達させる役割を担っていました。東高瀬川の開鑿とその舟運の開始は、以前は下鳥羽から陸路が中心であった中世洛南の交通体系や物資輸送に大きな影響を与えました。（参考：『史料京都の歴史 伏見区 16（平凡社）』）

近年のまちづくりの歩み



1-2 まちづくりの課題

当該地区を取り巻く今日的なまちづくりの状況を踏まえて、今後解決すべき課題を、以下のように分析しました。

ビジネス環境	交通至便 高速道路や京都駅に至近であり高い交通利便性を誇る	中継地としての歴史 かつてより、都の機能を維持するために中継地として重要な役割を担ってきた
	京都企業ブランド 京都ブランドに強みを感じる企業は多い	職住近接 伏見のまちなかにも近く職住近接のライフスタイルが可能
	多種多様な業種が集積 製造業はもとより、小売・卸売、飲食、サービスなど混在	
空間的 魅力・資源	企業躍進のステージ 世界的に活躍する企業群が飛躍する舞台となっている	
	自然環境 東高瀬川や油小路沿道の街路樹、三栖公園などの自然環境を有する	まとまった未利用地 まとまった低未利用地も見られ、企業誘致やまちづくりに必要な機能導入の余地となる
産業支援	充実した産業振興支援 ACT 京都等の支援拠点とともに、手厚い支援制度が魅力	

交通	末端交通にやや難 鉄道駅などの交通結節点からの距離が離れており、末端交通にやや難がある	
土地利用	低未利用な土地 地区内には駐車場等の低未利用地が混在しており、油小路沿道等では土地利用の高度利用が十分に進んでいない	津知橋通以北の用途制限 第一種住居地域のため、オフィス等の立地が困難
	交流の場の不足 飲食店や交流が可能な場や宿泊施設などが不足	文化的インフラの不足 国立国会図書館のような文化施設が不足している
地価・ 建築動向	地価が高い 高地価のため事業用地の確保が困難	新築等が低調 らくなん進都全体に比べ建築数が若干、少ない
集積分野	バイオ・情報分野 「情報+バイオ系」の集積が弱い。宅地化が進んでいるため、立地が困難	

まちづくり の動き	ものづくりへの政策的な期待 京都市の活力向上に向けては、ものづくり産業に対する期待は大きく、今後、一層の公民連携による機能集積・産業振興が求められる
	産業集積に向けた動き 都市計画マスタープランなどにおいて、産業集積を図っていく政策的位置付けがなされている
外部環境	他の産業集積との分担・連携 周辺における他の産業集積とは、得意とする分野が異なるとともに、その近接性から今後の連携が期待される

機会を捉えまちの強みを活かし成長する

成長産業の更なる集積を図るため、低未利用地を活用することで受け皿を作ること

産業イノベーションを促すため、地区内外を繋ぐ産学・産産のネットワークを拡げること

機会を捉えまちの弱みを補う

ビジネス環境の更なる向上を図るため、飲食・サービス・文化など、都市機能の適切な集積を促すこと

まちの変化	土地価格の上昇 土地価格の上昇は、新規参入の障壁となる恐れもある	新型コロナウイルス等による影響 大企業の通勤者が減少することでREXの運営が困難になるなど
	他都市の産業集積 滋賀県など、補助政策に力を入れ、産業集積を図る他都市の存在	
競合の存在		

まちの強みを活かし脅威に備える

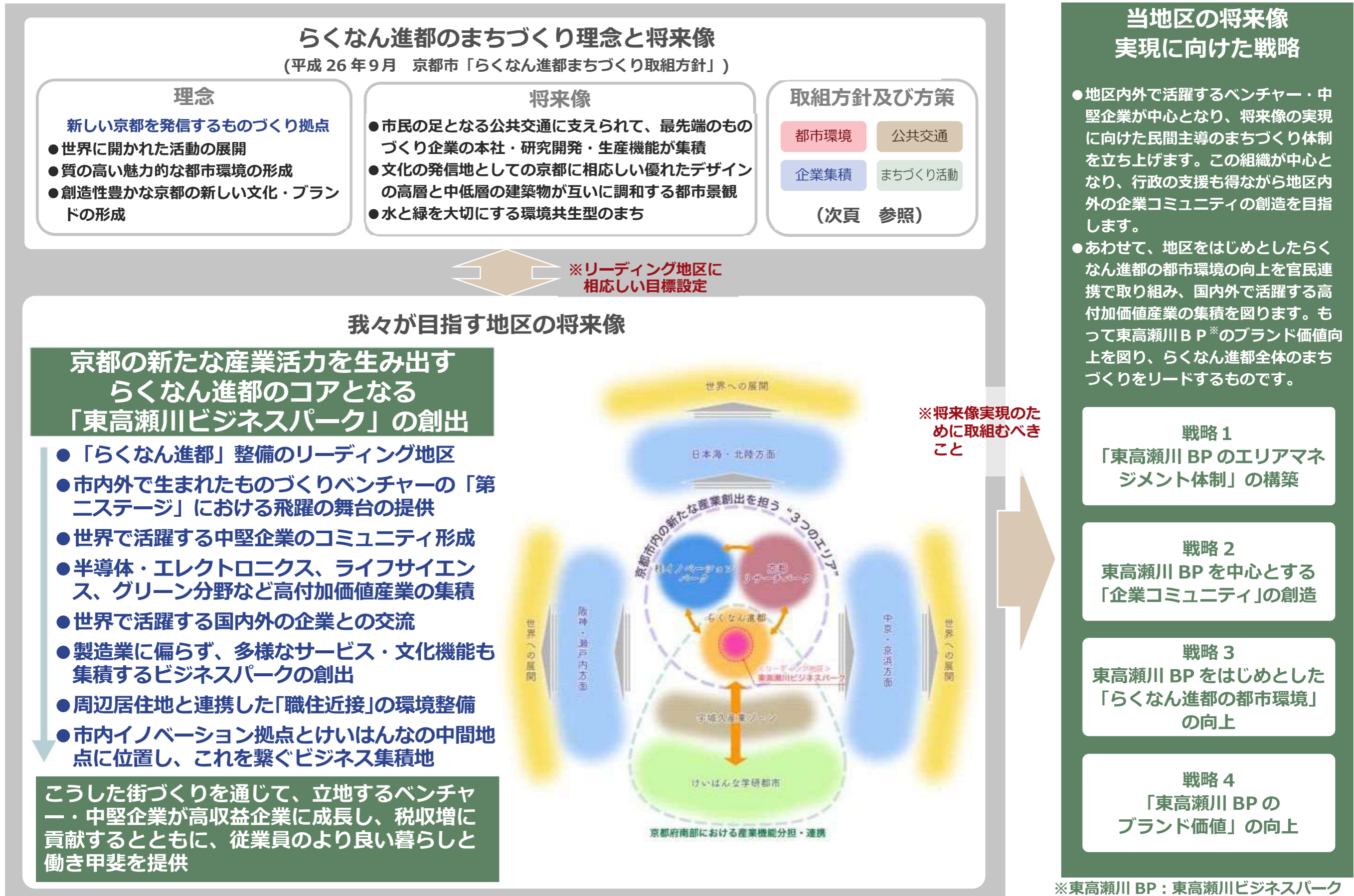
ブランド力の向上を図るため、高瀬川など自然環境の魅力や伏見旧市街との結びつきを発信すること

まちの弱みを理解し脅威を避ける

アクセシビリティを高めるため、多様な交通手段を組合せた二次交通の充実を図ること

2. まちづくりの方向性と戦略

課題を踏まえ、「目指す将来像」「将来像実現に向けた戦略」といったまちづくりの方向性を設定します。



(参考)：らくなん進都全体の取組方針及び方策 (「らくなん進都まちづくり取組方針」P.4,5抜粋)

今後、地区外の産業振興拠点を含み多様な主体との連携のもと、都市環境、企業集積、公共交通、まちづくり活動の4つの柱の連携・融合により、「新しい京都を発信するものづくり拠点」の形成を図ります。

都市環境

環境への配慮等、新しい京都としてのまちなみの形成と魅力的な都市環境の創出

- らくなん進都にふさわしい景観ガイドラインの策定
 - ・ 地域住民や企業等との協働によるワークショップの開催
 - ・ 今後の景観規制の在り方についても検討
 - ・ 河川等における親水性の向上
- 緑溢れる油小路通沿道景観の形成
 - ・ 民有地の緑化を促す新たな助成事業の創設
 - ・ 緑化を推進する機運の醸成
- 更なる都市機能の集積に向けた都市計画手法の活用
 - ・ 油小路通沿道の土地の高度利用化
 - ・ 本社・工場等の一体化による土地の高度利用化
 - ・ 竹田駅周辺の複合拠点化

企業集積

産業競争力の高いものづくり企業の本社や研究開発機能の更なる集積の推進による京都の経済基盤の強化

- 京都市成長産業創造センター (ACT Kyoto) の立地効果を生かした企業誘致の促進
 - ・ 中小企業への技術移転の促進、大学や企業等の交流の場の提供
 - ・ らくなん進都整備推進協議会*との連携
- 産業支援策の検討・実施
 - ・ 企業の多様化するニーズに応える産業支援策の検討・実施
 - ・ らくなん進都の魅力を世界へ発信
- 土地活用の促進
 - ・ 企業ニーズと土地情報のマッチング
 - ・ 土地所有者に対する土地活用を促す積極的な提案



公共交通

らくなん進都に活力や賑わいをもたらす、環境にもやさしい利便性の高い公共交通システムの構築

- 集積に応じた公共交通システムの構築
 - ・ バスの高規格化
 - ・ 丹波橋駅等、鉄道駅とのアクセス向上を図る交通手法の検討
 - ・ 自転車の更なる活用 (高速道路高架下への駐輪場の設置等)
- 公共交通への利用転換の促進
 - ・ 京都駅南口における分かりやすい案内情報の提供等
 - ・ 交通事業者や地域住民・企業と連携した利用者増の取組 (モビリティマネジメントやイベントの開催等)
 - ・ 鉄道及びバス交通の連携強化による利便性の向上 (パターンダイヤ化等)

まちづくり活動

多様な主体の参画による活気や魅力に満ちたまちづくりの推進

- まちづくり活動の活性化
 - ・ 景観のワークショップ等を通じた新たなまちづくりの担い手の発掘
 - ・ らくなん進都整備推進協議会の体制強化 (企業のPRなど、会員のメリットとなる活動の展開等)
 - ・ 「らくなん進都」の地区イメージの向上 (ロゴの作成、地区を示す標識の設置等)
- 多様な主体の連携による新たな地域資源の創出
 - ・ 農商工連携をはじめ、地元の京野菜や日本酒などの商品開発等

* らくなん進都のまちづくりを、住民・企業・行政の連携により進めるため、平成12年3月に設立。構成会員は54団体 (平成26年4月1日現在)

3. 将来像の実現に向けた取組施策

3-1 戦略に基づく取組施策

将来像実現に向けた戦略に基づいて、以下の施策を展開することを提案します。

戦略1：「東高瀬川 BP のエリアマネジメント体制」の構築

●ビジネスパーク実現に向けたエリアマネジメント体制の構築

重点
施策

- らくなん進都のリーディング地区として、各種施策・事業の企画・提案・実現を強力に推進する、実行性のある新たなエリアマネジメント組織の立ち上げ
- 既存の地域団体や周辺組織等とも連携した中長期的なまちづくり体制の構築

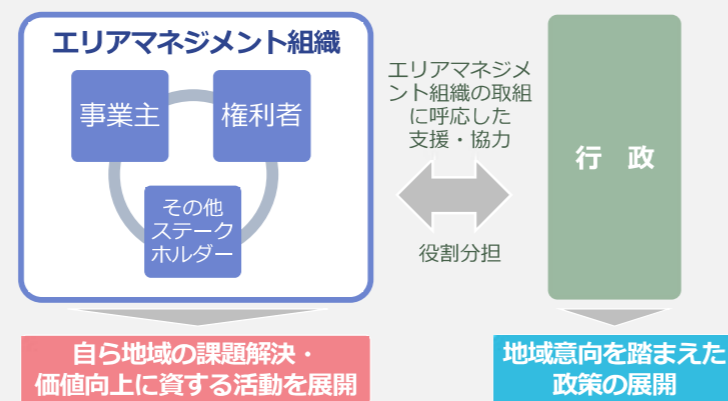
●将来的な財源確保に向けた調査研究の推進

重点
施策

- 事業財源の確保に向けた「街づくり協力金」創設に係る調査研究（企業による寄付行為の受け皿整備、企業版ふるさと納税の活用等）
- ベンチャーキャピタルや金融機関と連携したファンド組成や、安定的で持続可能な産業まちづくりに係る財源確保策の研究

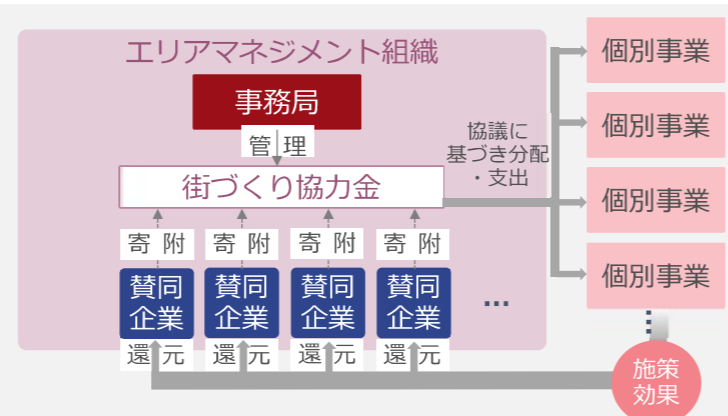
（参考）エリアマネジメントとは

- ・特定のエリア内の事業主や土地建物権利者など、民間主体で地域課題の解決や地域の価値向上に資する取組を積極的に行うこと。
- ・現在、全国各地でエリアマネジメントの取組が実施されている。



<取組のイメージ> 寄附行為の受け皿づくり（街づくり協力金）

- ・地区内企業を中心としたエリアマネジメント組織を立ち上げ、各種の産業振興事業やまちづくり事業を推進するための財源確保
- ・東高瀬川ビジネスパークの実現に向けて、各種事業の財源確保の一助として基金（街づくり協力金）を設定



重点
施策 重点的に取り組む施策

重点
提言 重点的に取り組む施策・京都市に対する提言施策

戦略2：東高瀬川 BP を中心とする「企業コミュニティ」の創造

●東高瀬川 BP の立地企業を中心としたコミュニティの形成

重点
施策

- 地域内に立地する中堅企業やものづくりベンチャー、大企業を中心として、産業支援機関等を活用した日常的な情報交換や交流等を行う機会の創出
- 立地企業の製品・技術などセールスポイントに係る情報の集約と発信
- 人材確保に向けた共同の取組（合同インターンや合同勉強会の開催、財務分野のエキスパート人材などベンチャー企業に必要なシルバー人材の雇用確保）
- 各種の産業支援機関と連携した企業内人材の学び直しの機会提供（大学や研究機関等の有する人材育成シーズを活用したリカレント・リスキルのセミナー等）

●らくなん進都における産産連携・産学連携によるイノベーションの促進

重点
提言

- アステムを中心とする支援機関等との連携を通じた、スタートアップやベンチャー第二ステージ、中堅企業等が飛躍するための産産連携の場となるオープンイノベーションの創出
- アクト京都等を活用したものづくり企業と大学や研究機関とのマッチング機会の創出
- 京都パルスプラザ等を活用した、ものづくり企業の高度な技術力や製品の展示会・見本市の開催やビジネスマッチングの促進

●京都市内外の産業拠点を結ぶ「オール京都」のネットワーク構築

- 桂イノベーションパークや京都リサーチパークをはじめ、けいはんな学研都市など市内外のイノベーション拠点の連携を通じた、府市協調によるエコシステムの形成
- 2025年大阪関西万博を契機とする国内外へ情報発信を目指した、オープンファクトリー・イベントなど立地企業の魅力発信の仕掛けづくり

EX. 若手経営者に向けた経営者塾の実施

EX. 大阪産業創造館の取組

（京セラ（株）の稲盛名誉会長「盛和塾」）

- ・若手経営者らが京セラ（株）の故稲盛名誉会長から「経営哲学」を学ぶため1983年に開始。例会（勉強会）のほか、全国の塾生が親交を深める全国大会などを実施
- ・2019年に閉塾



〔出典〕 稲盛和夫 OFFICIAL SITE より



〔出典〕 大阪産業創造館 HP より

戦略3：東高瀬川 BP をはじめとした「らくなん進都の都市環境」の向上

●多様な都市計画手法等の活用による産業機能の立地誘導

重点
提言

- 高付加価値のものづくり産業をはじめ、多様なサービス・文化機能の集積に向けた、東高瀬川エリアをはじめとするらくなん進都の都市計画の見直しや地区計画、特例許可の活用
- 低未利用地等の産業用地への転換促進

●ベンチャー第二ステージの受け皿整備

重点
提言

- 京都市内外のインキュベーション施設の卒業企業のうち、将来性を見込める企業のセカンドステージの舞台として立地を促進
- 不動産事業者との連携を通じた、既存オフィス・工場における有効活用の促進
- 「第二ステージ向けの産業拠点」の創出

●働き易いまちづくり & 公共交通の利便性向上

- ものづくり企業のほか、商業・サービス・コンベンションなど、多様な都市機能を有する魅力的で働き易い都市機能の立地誘導
- バス事業者との連携による、使いやすく持続可能な路線の復活（らくなんエクスプレス）
- シェアモビリティ導入による、域内二次交通の利便性向上
- 無人運転自動車の導入など、実証実験フィールドを構築

<参考> 現行の用途地域図



戦略4：「東高瀬川 BP のブランド価値」の向上

●世界で活躍が期待される元気な企業の集積と「東高瀬川ブランド」の形成

重点
提言

- 半導体・エレクトロニクス、ライフサイエンス、グリーン産業等の世界を牽引するグローバル企業の研究所や日本ブランチなど、企業集積に向けた企業誘致活動や企業誘致施策の充実
- 油小路通の東側道路を対象とした愛称の検討やサインの設置
- 東高瀬川 BP の統一ロゴマークを制作し共同使用するなど、立地企業によるブランディングとこれを通じた「東高瀬川に立地する企業である誇り」の醸成

重点
施策

●伏見の自然や歴史を活かしたエリア全体の魅力向上

- 東高瀬川護岸におけるソメイヨシノの植樹、道路美装化、ジョギングロード・散策路の整備、水辺へのアクセスポイント整備等を通じた一体的な空間整備
- 街路の緑化やポケットパーク整備など、歩行者空間の整備を通じたビジネス環境の快適化
- 城南宮や東高瀬川など、周辺の歴史的遺構にフォーカスした魅力的な散策環境の整備
- 伏見の酒蔵や飲食店のマップなど、伏見中心市街地の商店街等との連携を通じた情報発信媒体の整備

EX. 道路の愛称設定による地域ブランド確立 (仙台市青葉区「桜楽坂」)

約 1.1km に渡る桜並木道の愛称を公募、「桜楽坂」と名付けることで、住民の愛着の喚起と、通りのブランディングを希求



[出所] 港北経済新聞より

EX. 皇居ランを支える環境整備 (東京都中央区皇居周辺)

皇居内のジョギング利用者向けにサイン整備を行うなど、環境の維持とマナー向上を促進



マナー周知サイン (皇居ランオンライン5km HP より)

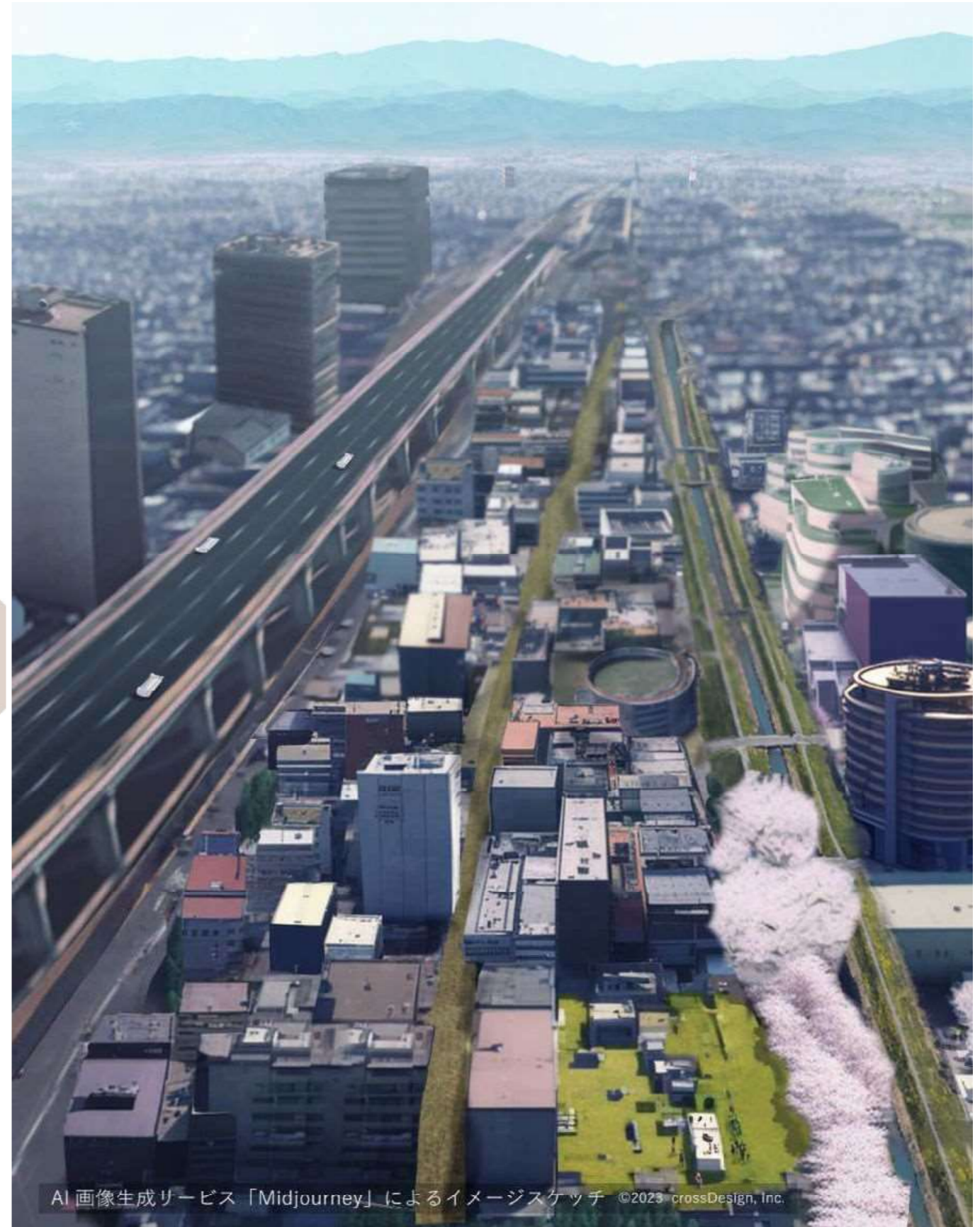
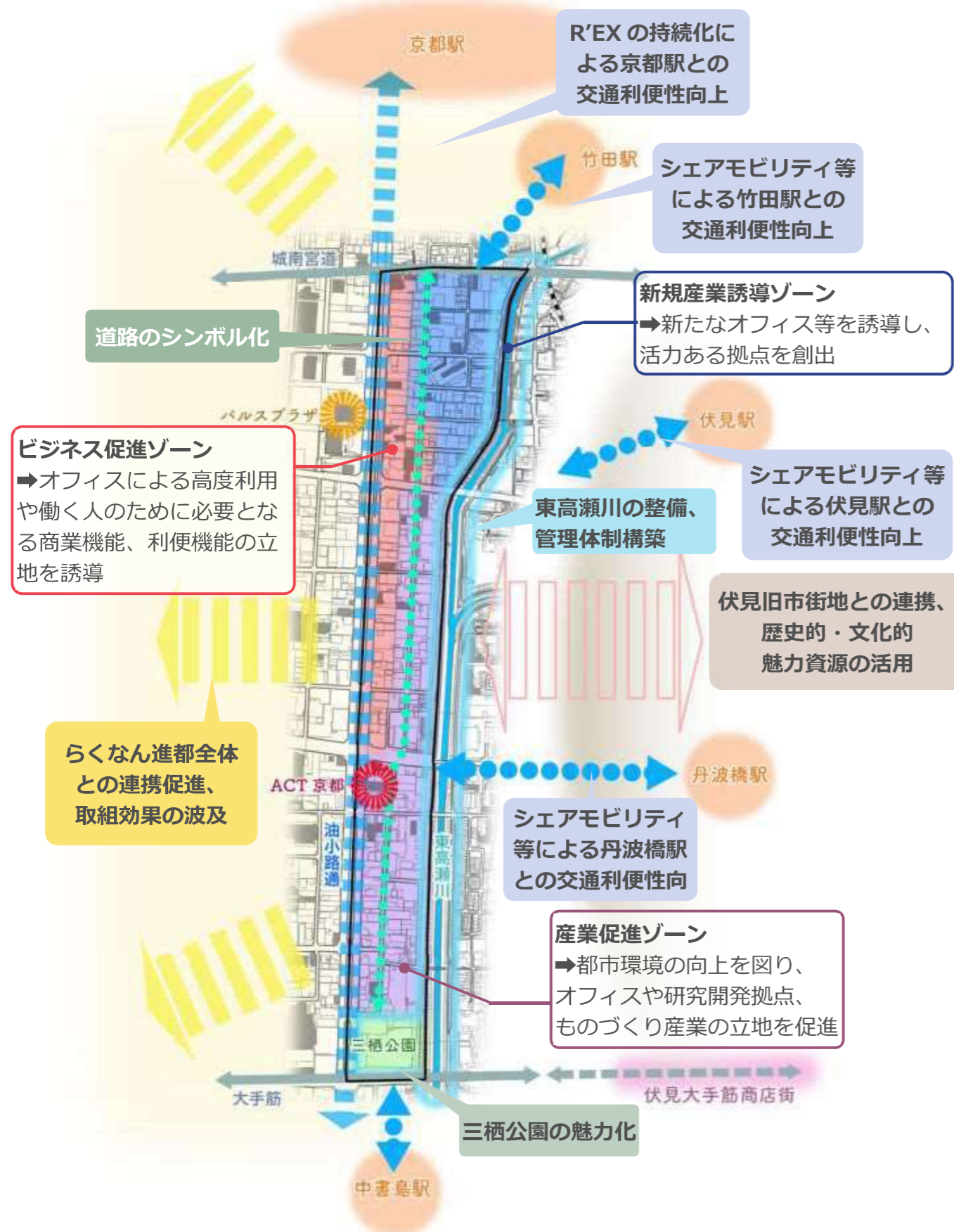
<取組のイメージ> 親水空間の整備



トコトコタンダン (大阪市) (土木学会 HP より)

3-2 施策を踏まえた将来像のイメージ

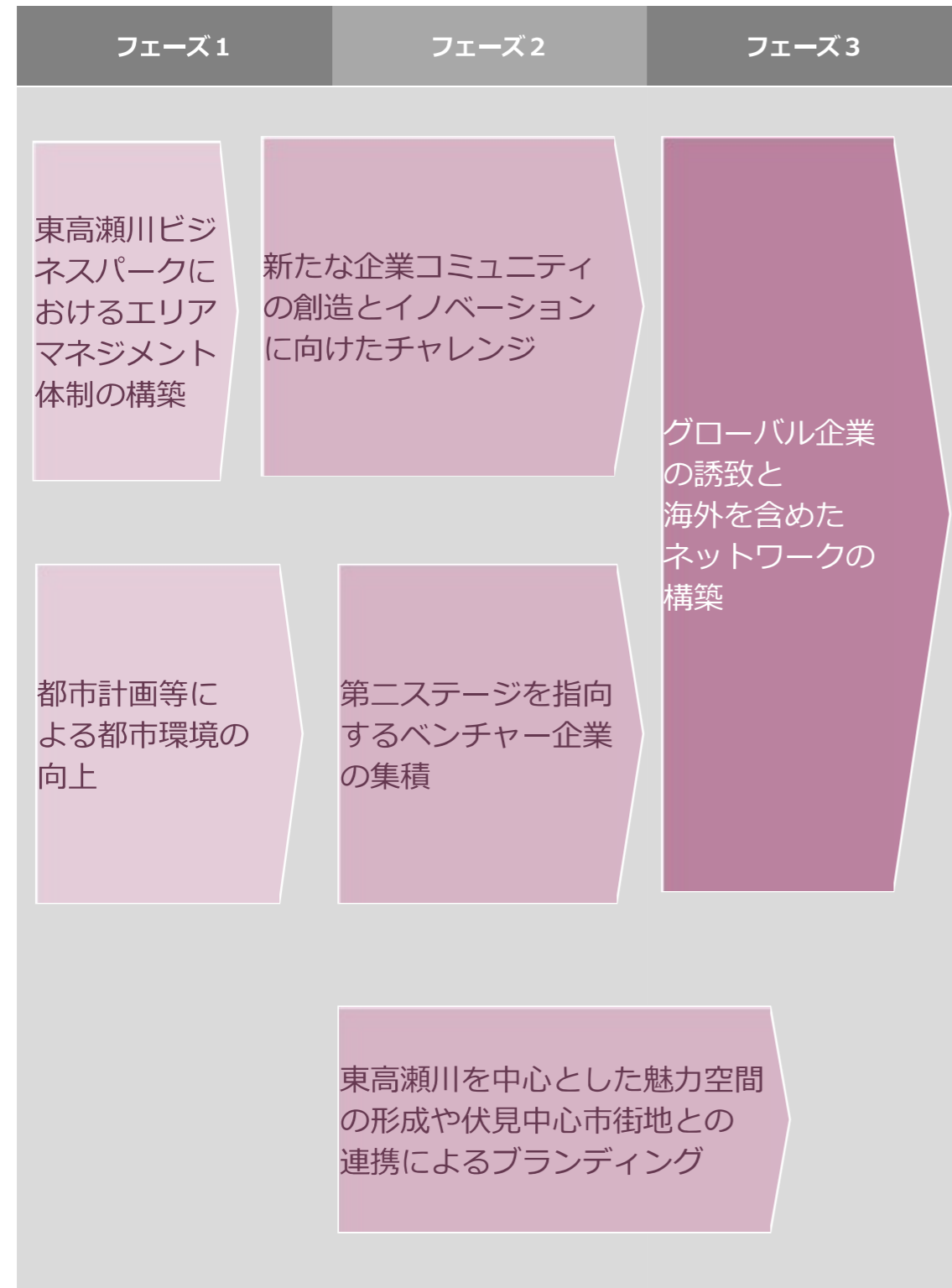
東高瀬川ビジネスパークの将来イメージスケッチ



4. まちづくりの推進に向けて

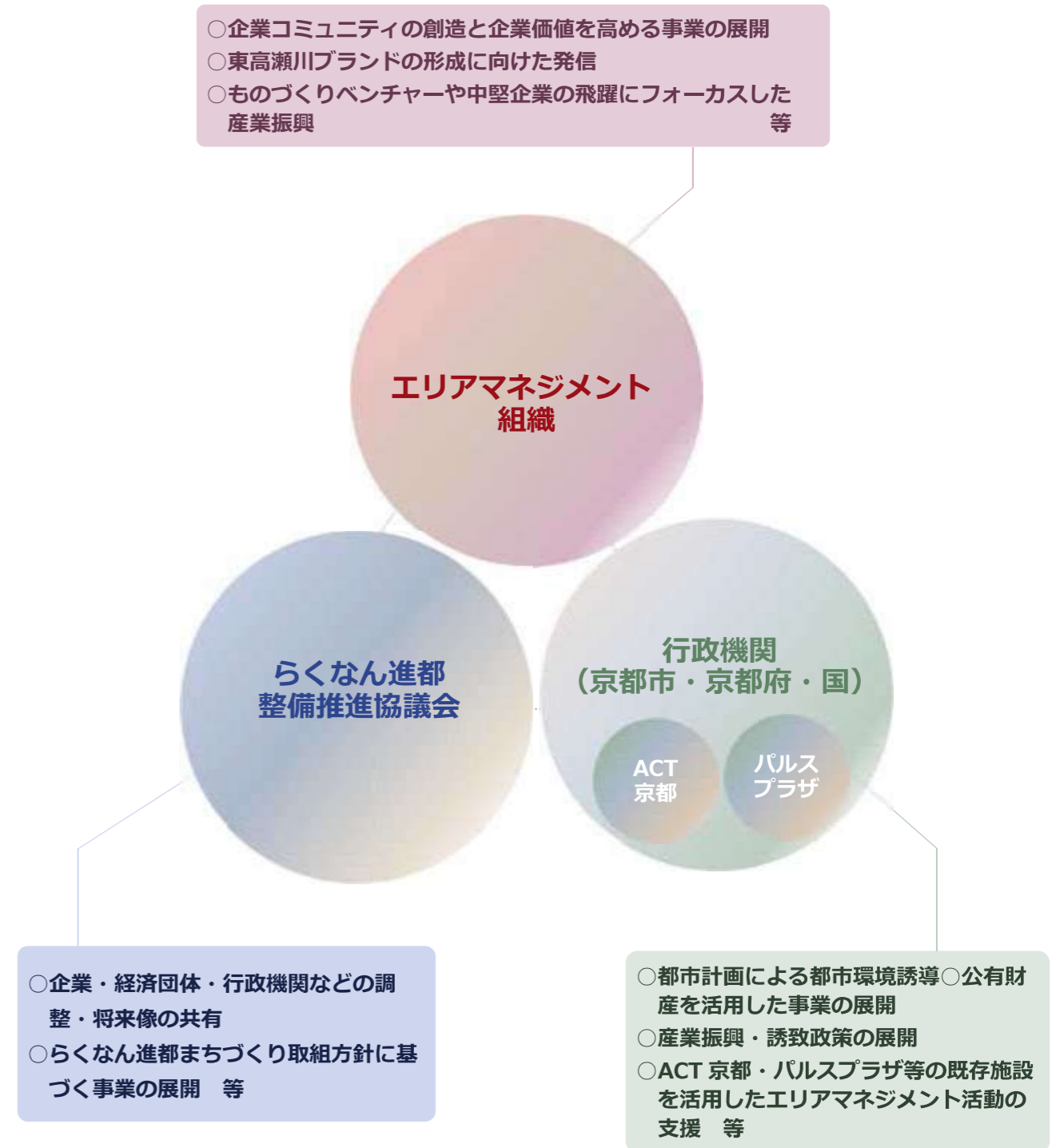
4-1 取組のロードマップ

以下の将来像の実現を目指し、戦略に基づき、各種取組を展開していきます。



4-2 推進に向けた連携体制

まちづくりの推進にあたっては、「らくなん進都整備推進協議会」、京都市・京都府をはじめとする行政機関等との柔軟な連携、及び適切な役割分担を提案します。



4-3 施策展開に向けた役割分担

以下の役割分担に基づき、各施策の展開を図ります。

戦略に基づく取組施策	エリアマネジメント組織 (仮)	らくなん進都 整備推進協議会	行政機関 (京都市・京都府等)	戦略に基づく取組施策	エリアマネジメント組織 (仮)	らくなん進都 整備推進協議会	行政機関 (京都市・京都府等)	
1:「東高瀬川BPのエリアマネジメント体制」の構築	ビジネスパーク実現に向けたエリアマネジメント体制の構築				多様な都市計画手法等の活用による産業機能の立地誘導			
	新たなエリアマネジメント組織の立ち上げ	組織のあり方の研究、立上、自律的運営	-	組織立上の支援、ノウハウ提供	ものづくり産業をはじめとする多様なサービス・文化機能の集積	エリアマネジメント組織の内外に向けた情報発信	連携可能性の検討	都市計画手法等の積極的な活用検討
	中長期的なまちづくり体制の構築	組織の更なる展開に関する研究	-	組織の更なる展開に関する研究支援	低未利用地等の産業用地への転換促進	土地建物所有者・デベロッパー等への情報発信、実現性検討	同上	産業用地への転換促進策の検討
	将来的な財源確保に向けた調査研究の推進				ベンチャー第二ステージの受け皿整備			
	「街づくり協力金」創設に係る調査研究	資金の創出方法や受け皿整備に係る研究会の実施	-	専門家派遣やノウハウの提供、研究会への参加	インキュベーション卒業企業の立地促進	市内外企業への情報発信	連携可能性の検討	市内外企業への働きかけ
	産業まちづくりに係る財源確保策の研究	金融機関等と連携した研究会の実施	-	同上	既存オフィス・工場における有効活用の促進	土地建物所有者・デベロッパー等への情報発信、実現性検討	同上	マッチング支援、不動産事業者との橋渡し
	東高瀬川BP地区内企業を中心としたコミュニティの形成				動きやすいまちづくり&公共交通の利便性向上			
	日常的な情報交換や交流機会の創出	定期的なサロンの企画・開催	事業連携や共催事業の検討	ACT 京都の施設活用、市内企業との情報交換など橋渡し	多様な都市機能の立地誘導	都市機能誘導に向けた提案	連携可能性の検討	都市計画手法等の活用検討
	立地企業に係る情報の集約と発信	各社の情報集約と発信ツールの製作、機会を捉えた情報発信	情報発信等に係る連携	行政の広報媒体を活用した情報発信	持続可能なバス路線の復活	従業員等の積極的な利用促進	利便性向上に向けた調査研究	らくなん進都全体の利便性向上検討
	人材確保に向けた共同の取組	合同インターン・合同勉強会の開催、シルバー人材等の確保	事業連携や共催事業の検討	人材確保事業との連携	域内二次交通の利便性向上	エリア内のシェアモビリティポート設置の普及啓発	らくなん進都でのシェアモビリティポート設置の普及啓発	公有地を活用したシェアモビリティボードの増設
企業内人材の学び直しの機会提供	大学・試験研究機関と連携した講座開催	情報発信等に係る連携	ACT 京都の施設活用、産学公連携の橋渡し	実証実験フィールドの構築	調査研究と提案	連携可能性の検討	助言並びにフィールド組成手続き	
2:東高瀬川BPを中心とする「企業コミュニティ」の創造	らくなん進都における産産連携・産学連携によるイノベーションの促進				世界で活躍が期待される元気な企業の実績と「東高瀬川ブランド」の形成			
	オープンイノベーションの創出	ACT 京都を活用したイベント実施等	事業連携や共催事業の検討	ACT 京都の施設活用、イベント等の連携	グローバル企業の研究所等の誘致活動	各社ネットワーク生かした情報発信、関係機関への橋渡し	連携可能性の検討	エリアマネジメント組織と連携した誘致活動、誘致施策の充実検討
	ものづくり企業・大学・研究機関とのマッチング機会の創出	ものづくり企業・大学・研究機関とのマッチング会の企画・実施	同上	産学公連携の橋渡し	愛称検討等やサイン設置等	愛称検討に係るエリア内調整、周知に向けた手法検討	連携可能性の検討	愛称設定の手続き
	展示会・見本市の開催、ビジネスマッチングの促進	イベントの出展、企画・開催	同上	広報等の協力	統一ロゴ共同使用等による「誇り」の醸成	ロゴの検討、発信	情報発信等に係る連携	行政の広報媒体を活用した情報発信
	京都市内外の産業拠点を結ぶ「オール京都」のネットワーク構築				伏見の自然や歴史を活かしたエリア全体の魅力向上			
	府市協調によるエコシステムの形成	KRP やけいはんな等との情報交換や事業連携の検討	連携可能性の検討	府市協調による可能性検討	東高瀬川護岸における一体的な空間整備	河川管理者等への整備提案	清掃活動の継続・発展	助言及び管理者への橋渡し
	立地企業の魅力発信の仕掛けづくり	万博関連事業との連携	事業連携や共催事業の検討	万博関連事業との連携、行政の広報媒体を活用した情報発信	歩行者空間の整備を通じたビジネス環境の快適化	清掃活動の実施、各社敷地内の緑化に向けた検討	同上	民有地の緑化促進の支援策検討
					歴史的遺構にフォーカスした散策空間の環境整備			
					酒蔵や飲食店マップなど情報発信媒体の整備			
					情報発信ツールの作成			
				情報発信等に係る連携				
				伏見中心市街地との連携支援				
				同上				